資料 3－2

鳥獣被害対策の取り組み

鳥獣対策課

1. 取り組み状況

（1）野生鳥獣に強い集落づくり

◆野生鳥獣に強い集落づくりの推進

・モデルとして 31 集落 (H24 年度 11 集落＋H25 年度 10 集落＋H26 年度 10 集落) を指定

・集落全体学習会、集落環境点検等の実施、住民施工による防護柵の設置

・鳥獣被害対策専門員 (9JA：12 名) による巡回指導及び講習会等の実施による管内への波及

（2）捕獲対策の強化

◆集落ぐるみの捕獲推進

・くくりわなの配付：31 市町村 1,005 集落に 9,000 個配付

(H25 年度：24 市町村 539 集落、5,000 個＋H26 年度：25 市町村 466 集落、4,000 個)

・わな捕獲講習会の実施：(H25 年度：39 箇所 {500 名} H26 年度：31 箇所 {544 名})

・わな猟シカ捕獲マニュアルの作成・配付：5,000 冊

◆新規狩猟者の確保

・狩猟免許試験の実施：試験 11 会場 16 回（うち出前試験 4 会場）

・狩猟フォーラムの開催：(H25 年度：1 回 {154 名}　H26 年度：1 回 {189 名})

（3）捕獲鳥獣の有効活動

◆消費拡大の推進

・調理教室の実施：2 回 (参加者 15 名)

・シカ肉料理コンテストの開催：応募点数 23 点

・ジビエフェアの実施：よさこいジビエガイドブック　20,000 冊配布

【具体的な成果】

◆被害ゼロ集落（～H25 年度）　平成 25 年度までの 19 集落中 17 集落で被害がほとんどゼロ

◆シカ捕獲数（H25 年度）　19,093 頭（　H24：15,845 頭）

◆狩猟免許合格者数（H26 年度）　350 名（うち出前試験合格者 71 名）（H25:425 名　H24:432 名）

◆捕獲シカ有効活用頭数（H25 年度）　309 頭（H24:215 頭）

◆ジビエフェア協力店数（H26 年度）　30 店舗（H25：20 店舗）

販 売 数（H26 年度）　2,290 食（H25：839 食）

課題

◆依然として県下全体での被害額は３億円余りで推移

◆モデル集落における成功事例の周辺への波及

◆シカ被害対策だけではなく、イノシシ・サル等への対策強化

◆狩猟者の確保と狩猟効率の向上

◆農地等だけでなく森林でのシカの捕獲強化

◆捕獲鳥獣の有効活用に向けた安全供給体制づくりと消費の拡大

2　平成２７年度の取り組み

（1）野生鳥獣に強い高知県づくり

◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

平成 24 年度から実施した「野生鳥獣に強い集落づくり事業」のモデル集落での取り組みを県内全域に拡大し、被害額の大幅な減少を目指す

・鳥獣被害対策専門員の活動強化、空白地域の解消（12 名→14 名）

・国の交付金を活用できない農地等やイノシシ・サル等を対象として県単でも支援を実施

【成果目標】被害集落の半減（３年間で５００集落）による農林業被害の軽減

（2）捕獲対策の強化

◆集落ぐるみの捕獲推進

被害のある集落に“くくりわな”を配付し、集落ぐるみの捕獲体制の確立を目指す

・わな配付数：3,800 個（新規狩猟者：2,000 個　被害集落：1,800 個）

・わな捕獲講習会の開催：わな配付に合わせ、県内 25 ヵ所で講習会開催

◆新規狩猟者の確保

わな配付集落での掘り起こし、出前試験・狩猟フォーラムの開催による狩猟者の掘り起こし

・狩猟免許試験実施回数　16 回（うち出前試験 4 回）

◆森林地域でのシカ捕獲の推進

皆伐地等での効率的なシカ捕獲技術の開発

・シカネットや餌付けと組み合わせた新たな手法によるくくりわなでの捕獲

【成果目標】シカ捕獲３万頭の捕獲体制の確立

（3）捕獲鳥獣の有効活用

◆消費拡大の推進

捕獲鳥獣を地域資源として有効活用することで、地域の活性化や産業振興につなげる。

特に、安全・安心な加工・流通・販売ルートの確立とジビエの消費拡大に取り組む。

・よさこいジビエ衛生管理ガイドラインの周知

　　講習会の開催（狩猟者・食肉処理業者、飲食店等）

・ジビエ流通実態調査

・ジビエフェアの開催・協力店舗の拡大（1 月 15 日～3 月 15 日）

【成果目標】安全・安心な流通ルートの確立とジビエの消費拡大

第1回中山間対策本部資料

野生鳥獣に強い高知県づくり

鳥獣対策課

H26年度までの取組

有害鳥獣を集落に寄せ付けない環境整備・防護柵等による防除・捕獲のバランスがとれた総合的な対策を推進

3年間で31集落を支援

【住民の声】
・耕作をあきらめる人が減った。
・住民がとても前向きになった。
・一人暮らしのおばあさんもわなの見回りをするようになった。

室戸市黒見・奈半利町平花田・本山町古田・四万十市東富山大屋敷など**約9割の集落**で被害額の大幅な軽減を達成

H25年度までに取組を終えた19集落のうち17集落で大幅な減少を達成！残る2集落も被害が軽減

多くの集落で被害「0」を実現

被害対策モデルの確立

課題

◇モデル集落での成功事例の県内への波及
◇鳥獣被害対策専門員の空白地帯の解消
◇鳥獣被害対策専門員の活動強化

目標

○専門員の活動強化と空白地域の解消
○専門員を中心にしたモデル集落での成功事例の普及
（対象**約1,000集落**）
*シカ・イノシシ・サルの被害が深刻な集落（シカ225、イノシシ639、サル181）

新たな取組

拡充
◆**鳥獣被害対策専門員配置事業**
成功事例普及に向けた集落の支援の強化
＊JAに14名の専門員を配置

＋

新
◆**野生鳥獣に強い高知県づくり**
鳥獣被害対策専門員が中心となってモデル集落の取り組みを周辺に波及

3年間で500集落を支援

被害集落半減

NEW 野生鳥獣に強い高知県づくり

推進チームによる集落の支援

◇推進チームによる支援集落の選定と支援
◇地域に応じた対策をコーディネート

毎年約170集落を支援

専門員による被害レベルの把握

集落活動センター
集落営農組織
集落協定など
を中心に選定

推進チーム
鳥獣被害対策専門員
農業振興センター、林業事務所、市町村、専門機関、鳥獣対策課

集落のまとまりと緊急性を考慮して支援をスタート

集落での勉強会の開催

◇被害対策の基礎知識を学習
◇今すぐできる対策をスタート
◇集落を野生鳥獣の立場から点検

シカやイノシシ等の生態や対策の基本をみんなで勉強

追い払いや放任果樹の剪定などできることから対策をスタート

集落の環境調査や鳥獣の出没状況の把握

◇農地の利用状況や被害場所、イノシシやシカの侵入経路を調べて対策用のマップを作成
◇自動カメラで加害鳥獣の特定や出没状況などを調査

農地等を調べてマップ化し視覚的に被害状況等を把握

集落での共通認識の醸成（合意形成）

◇推進チームで検討し、集落で共通認識や取組みについての合意形成を醸成

マップを活用した集落での検討会

先進事例も視察
○モデル集落での身近な成功事例を視察
○やればできるを体感

集落共同での防護柵の設置と管理

◇集落ごと効率よく囲う防護柵の設置
◇効果的な防護柵の設置研修会
◇定期的なメンテナンスの体制づくり

国交付金や県単事業を優先配分
○自力施工は国費で資材代を全額支援
○県単できめ細やかな支援を実施 新

地域ぐるみで捕獲を推進

◇みんなで狩猟免許を取得
◇わなのかけ方講習会の実施
◇くくりわなを優先配分

捕獲した鳥獣の有効活用（ジビエの普及）

◇捕獲した鳥獣を地域資源として有効活用
◇婦人会や猟友会との連携

鹿肉ロースト

野生鳥獣に強い高知県づくり
○元気な取組事例を情報発信⇒さらに周辺地域に波及！

シカやイノシシ・サルなんかに負けない！

集落の自立へ

地域の活性化

農林業被害の大幅な減少 ＝ 野生鳥獣との共存 ＝ 暮らしやすい高知家へ

H27野生鳥獣に強い高知県づくり支援集落

鳥獣対策課　H27.4.16現在

市町村	支援集落数	市町村	支援集落数	市町村	支援集落数
東洋町	1	本山町	1	津野町	10
室戸市	12	土佐町	5	梼原町	7
奈半利町	0	大川村	4	中土佐町	7
田野町	1	南国市	0	四万十町	20
北川村	3	高知市	14	黒潮町	0
馬路村	0	土佐市	0	四万十市	33
安田町	2	いの町	1	宿毛市	4
安芸市	10	日高村	1	三原村	2
芸西村	0	佐川町	1	大月町	2
香南市	4	越知町	2	土佐清水市	4
香美市	14	仁淀川町	4	計	175
大豊町	4	須崎市	2		

森林地域シカ捕獲事業によるシカ捕獲技術の確立

鳥獣対策課

【背景】

○皆伐地の増加とシカ被害の深刻化

再造林が進まないと大型需要に供給体制が追いつかない恐れ

・日本最大の集成材メーカー「銘建工業(株)」が主体となった大型製材工場「高知おおとよ製材」が、操業を開始。平成27年度のフル操業時には、四国最大級となる年間10万立方メートルの大量の原木を加工予定。

山では約20万立方メートルの伐採が必要

・高知市と宿毛市で、合わせて年間約20万立方メートルの木質バイオマスを使用する発電施設が稼働。

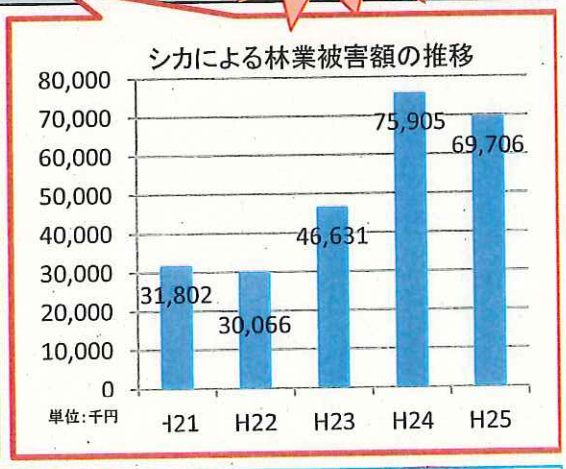
・森林面積84%の豊かな森には約1億8千万立方メートル(全国第5位)の森林資源がありながらシカの被害に脅かされている。

【課題】

○現状の捕獲手法における課題

・銃によるSS(シャープシューティング)は、長期間の餌付けと高度な射手が不可欠

・ICTを活用したドロップネットや大型の囲いわな等は、電波の届かない森林では使用不可



林業者が自らできるシカ捕獲技術の確立が急務

NEW

森林地域シカ捕獲技術研究委託料 (9,878千円)

シカネットや餌付け等と組み合わせた新たな手法によるくくりわなでの捕獲

全国的に類を見ない新たな手法による**課題解決先進事例**に

新規性と独創性

高度な技術は不要

モデル地域での事例を研修会等により県内各地の林業現場に技術普及

林業者が自らできるシカの捕獲対策

未来に向かった森林資源の持続的な更新